

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。
当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を
重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ
どよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日

平成 22 年 7 月 1日（木）ご依頼分より

■新規実施項目

検査項目	● 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
------	-----------------

■新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備考
6345 1	抗RNAポリメ ラーゼⅢ抗体	血清 0.3	↓ X	凍結 (28日)	2~8	170 ※5	ELISA	28未満 判定基準： 下記参照	

判定基準

INDEX	判定
28未満	陰性 (-)
28~50未満	(±)
50以上	陽性 (+)

● 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体

びまん性(diffuse型)強皮症に特異性の高い抗体です。

強皮症腎(腎クリーゼ)のリスク予測や、発症後のモニタリングに有用です。

全身性強皮症(Systemic sclerosis:SSc)は、皮膚の硬化を特徴とし、時には肺、腎臓、心臓などの内臓にも病変が出現する慢性疾患です。病型は2つに分類され、比較的軽症の限局性(limited型)と急性で広範囲に及ぶびまん性(diffuse型)があります。全身性強皮症の患者血清中に検出される自己抗体は、鑑別診断や病型分類に有用であり、従来の抗Scl-70抗体(抗トポイソメラーゼⅠ抗体)は肺繊維症を伴うびまん型(diffuse型)、抗セントロメア抗体は限局型(limited型)と関連することが知られています。

このたび受託開始いたします抗RNAポリメラーゼⅢ抗体は、これらの自己抗体との共存例が少なく、びまん性強皮症に特異性が高いことから、より一層の診断精度の向上が期待されます。

また、抗RNAポリメラーゼⅢ抗体陽性例では、重篤な内臓病変のひとつである強皮症腎クリーゼ(scleroderma renal crisis)を合併する頻度が高いとされています。本検査陽性例は強皮症腎クリーゼの発症リスクの高い症例として日常的に管理し、治療方針を決定することが重要とされています。

▼関連する主な検査項目

- 抗セントロメア抗体 ● 抗Scl-70抗体 ● 抗核抗体

▼検査要項

検査項目名	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
項目コード No.	6345 1
検体量	血清 0.3 mL
容器	X (ポリスピッツ)
保存方法	凍結保存してください
所要日数	2~8 日
検査方法	ELISA
基準値(単位)	28未満 判定基準: 下記参照
検査実施料	170点(「D014」自己抗体検査の10)
検査判断料	144点(免疫学的検査判断料)
備考	

▼疾患との関連

- 全身性強皮症

▼判定基準

INDEX	判定
28未満	陰性(-)
28~50未満	(±)
50以上	陽性(+)

▼診療報酬算定条件

びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合には、1回を限度として算定できる。診断において陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。

●参考文献

桑名 正隆: リウマチ科40(3): 239~245, 2008. (検査方法参考文献)